



## 研究部会報告

### ● 信頼性とその応用 ●

#### ・第1回

日 時：2019年5月25日(土) 9:00~10:50

場 所：愛知工業大学本山キャンパス

出席者：16名

テーマと講師、及び概要：

- (1) 「製品リコール実施の意思決定における信頼性工学手法についての検討」

銭 存華 (南京工業大学)

消費生活用製品安全法においては、製造事業者にとって、消費者に安全な製品を供給することが基本的な責務として規定されている。最新の技術進歩を踏まえた周到な製品安全管理態勢を構築し、その運用を行っていても、製品事故等の発生を完全に防止することは困難である。このため、製品事故等の発生又は兆候を発見した段階で、迅速かつ的確なリコールを自主的に実施することが必要不可欠になる。本講演では、確率過程を用いたリコールモデルが紹介された。また、リコールするリスクとしないリスクの比較によってリコールを実施するか否かの意思決定問題が紹介された。

- (2) “Maintenance modeling with non-replacement intervals”

Xufeng Zhao (Nanjing University of Aeronautics and Astronautics)

本講演では、ホットスタンバイシステムにおけるユニットの年齢取り替えについて紹介された。特に、あるミッション期間中における信頼性を考慮した上で、ユニットの取り替え機械がランダムに発生する環境下における最適な取り替え方策についての議論が行われた。

### ● 危機管理と社会とOR ●

#### ・第3回

日 時：2019年6月20日(木) 14:00~17:00

場 所：政策研究大学院大学研究会室4B

出席者：17名

テーマと講師、及び概要：

- (1) 「時間的圧迫状況下での意思決定過程に及ぼす要因の検討」

永岑光恵 (東京工業大学), 曾雌崇弘 (京都大学)

意思決定過程に影響を与える要因の一つに時間的圧迫があり、高齢者を巻き込んだ特殊詐欺で想定される状況要因の一つと考えられている。本講演では、まず意思決定課題である「アイオワ・ギャンプリング課題」を用いた若年者研究で、時間的圧迫が意思決定に要する時間や個人特性との関係性に影響を及ぼすことが紹介された。さらに、対象群を高齢者に拡張した実験とその結果の概略が紹介された。

- (2) 「共同作業による連帯感の醸成と利他行動の関係」  
福田恵美子 (東京工業大学), 竹内あい (立命館大学)

本講演では、独裁者と受領者がコミュニケーションを取りながら実労働を通じて報酬を獲得し、獲得した報酬を配分する独裁者ゲームについて、行動経済学的な実験の結果が紹介された。通常の独裁者ゲームでは、独裁者が配分する報酬は「天から降ってくる」設定で行われる。紹介された実験により、協力して課題を行うことで独裁者と受領者の心理的距離が縮まるかどうか、心理的距離が近づいた相手には利他的行動をとる傾向が高まるかどうかについての分析が紹介された。加えて、意思決定までの応答時間や個人のもつ不安傾向等の特性が、利他的行動に及ぼす影響などが議論された。